

令和5年8月23日

第73次 印旛地区教育研究集会  
国語研究部「書く」分散会 提案資料

## 研究主題

自分の思いや考えを表現できる児童の育成  
～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくりを通して～



成田市立成田小学校

## 目次

I	研究全体構想	1
II	研究主題について	2
III	めざす児童の姿	4
IV	研究の視点と具体的な手立て	4
V	研究を支える日常の取組	5
VI	実践	
	授業実践① 1年生	6
	授業実践② 4年生	11
	主な日常の取組① 『言の葉』	18
	主な日常の取組② 『めざせ！作文名人！』	19
VII	研究の成果と課題	21

# I 研究全体構想

## 学校教育目標

### 自主創造の精神に富む児童の育成

目指す児童像 ～やさしく・かしこく・たくましく生きる成小の子～

<やさしく =豊かな心> ありがとうの言葉と気持ちを伝えられる子

<かしこく =確かな学力> よく考え、問題を解決する子

<たくましく =健やかな体> 力いっぱい運動したり、活動したりする子

## 研究主題

### 自分の思いや考えを表現できる児童の育成

～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくりを通して～

### めざす児童の姿

低学年	中学年	高学年
経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、伝えたいことや自分の思いや考えが明確になるように構成を考えて、内容のまとまりがわかるように書くことができる児童。	相手や目的を意識して書くことを選び、内容の中心を明確にし、段落をつくったり段落相互の関係に注意したりして構成を考え、自分の思いや考えとそれを支える理由や事例を明確にして書くことができる児童。	目的や意図に応じて書くことを選び、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書くことができる児童。

## 研究の視点と具体的な手立て

### 育成する資質・能力を明確にし、指導の改善に生かす題材開発と授業改善の工夫

#### 〈視点1〉

#### 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動の設定

- ①育成したい児童の資質・能力を明確にした言語活動の吟味
- ②学習の目的意識を明確にもたせる導入
- ③単元全体の見通しをもたせる学習計画

#### 〈視点2〉

#### 伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫させる方法

- ①児童が自ら見付けたり選んだりできるような発問の工夫
- ②学校図書館や情報機器を利用し、図書資料や新聞、インターネット等から情報を得て、調べたり考えたりさせる場の工夫
- ③伝えたいことが明確になるように、文章の構成を考えさせる工夫

## II 研究主題について

### 1 研究主題

自分の思いや考えを表現できる児童の育成  
～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくりを通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 学習指導要領から

小学校学習指導要領国語科の目標は以下のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習指導要領では、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことについて、以下のように書かれている。(以下、一部抜粋) 学習の中で、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方など言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について改めて言葉に着目して吟味することで、言葉への自覚を高めること。このことが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる。

近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、技術革新等により、予測が困難な時代となっている。また、少子高齢化が進む中で、一人一人が持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出していくことが期待される。さらに、人口知能の進化により、社会や生活が大きく変化することが予測されると指摘されている(平成29年7月告示学習指導要領)。このような社会背景から、学校教育には、児童が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築していくことが求められている。つまり、児童を取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化しているといえる。

こうした状況を踏まえ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を児童が育むことが求められている。平成29年の学習指導要領の改訂では、育成を目指す資質・能力を「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱に整理され、学校教育が育成を目指してきた「生きる力」がより具体化された。児童の「生きる力」を育むために、社会に開かれた教育課程の編成の推進と、授業改善の取組の活性化が求められている。

#### (2) 学校教育目標及びこれまでの取組から

本校の教育目標は以下のとおりである。

校訓 自主創造の精神に富む児童の育成

成果目標 児童の自尊感情育成に努める

「豊かな心 やさしく」「確かな学力 かしこく」「健やかな体 たくましく」

また、「確かな学力 かしこく」では、重点項目の一つとして「思考力・表現力・コミュニケーション

ョン能力の向上を目指す。」と設定している。

本校で過去に研究してきた英語科は、現在も全学年で取り組んでいる。英語科の授業展開を丁寧に実施することは、子どもたちの豊かな人間関係を育むということが実証されてきた。豊かな人間性は、自分の思いや考えを表現する本校の研究に欠くことのできない要素である。

国語科の研究を通して、自分の思い（主観的、情緒的な感想などで、心で感じたこと）や、考え（筋道を立てて論理的に思考された意見などで、頭で考えたこと）を他者に効果的に伝えることができるように、題材設定から情報の収集、共有等の学習過程を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせながら、国語で適切に表現する資質・能力を育成していきたい。

### (3) 児童の実態から

これまでの取組の結果、子どもたちは授業の中で意見を交わし合い、集団で課題を解決する力が身に付いてきた。また、令和元～3年度の全国学力・学習状況調査や成田市学力調査の結果を見ると、国語科全体では、全体の平均正答率と同程度または上回る結果となった。しかし、国語科3領域では「書くこと」の正答率が最も低く、正しい接続詞や表記で文章を書くことや、目的に沿って自分の分かったことや考えたことを表現することに課題が見られた。つまり、文章を読み取ったことや習得した知識、経験を活用して、表現する力が不足していることが明らかとなった。

そこで、国語科「書くこと」の研究をするに先立ち、児童の実態調査を行った。結果は以下のとおりである。

調査日 令和4年6月 対象:1～6年生(計 605名)	そう 思う	まあそ う思う	あまり思 わない	思わ ない
①国語の授業は楽しい。	45.7	37.0	11.3	6.0
②経験したことや想像したことなどから、書くことを見付けることができる。	34.1	42.6	13.8	9.5
③自分の思いや考えを書くことができる。	41.4	33.3	18.5	6.8
④(低)伝えたいことが相手に分かるように文章の順序を考えることができる。 (中)書く内容の中心をはっきりさせ、段落に注意して文章の構成を考えることができる。 (高)筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。	26.8	41.3	19.2	12.7
⑤(低)友達が書いた文章を読んで、感想を伝えられる。 (中)友達が書いた文章を読んで、書こうとしていることがはっきり伝わってきたかなどの感想を伝えられる。 (高)友達が書いた文章を読んで、文章全体の構成や展開が明確かどうかなどの感想や意見を伝えられる。	33.6	39.8	17.1	9.5

全体として、国語科の学習を肯定的に捉えている児童が多いが、文章の順序や構成を考え、自分の思いや考えを書き表すこと、また、書いたものを読んで交流することに苦手意識を感じていることが分かった。そこで、子どもたちの思考力と表現力を高めるための学習指導の在り方を研究の課題とし、本主題として設定した。

本校では、「児童が言葉による見方・考え方を働かせる」を、特に、「考えの形成・記述」の場面において、自分の思いや考えがより明確になるような言葉を選んだり、自分の考えとそれに対する根拠

や事例との関係を明確にする書き表し方を工夫したりする姿と捉えた。言葉を使って表現する相手・目的意識を明確にした言語活動を通して、言葉と言葉との関係を、言葉の意味や働き、使い方に着目して吟味し、自分が表現したいことを適切に書き表すことのできる児童の育成を目指していく。

### Ⅲ めざす児童の姿

低学年	中学年	高学年
経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、伝えたいことや自分の思いや考えが明確になるように構成を考えて、内容のまとまりがわかるように書くことができる児童。	相手や目的を意識して書くことを選び、内容の中心を明確にし、段落をつくったり段落相互の関係に注意したりして構成を考え、自分の思いや考えとそれを支える理由や事例を明確にして書くことができる児童。	目的や意図に応じて書くことを選び、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書くことができる児童。

### Ⅳ 研究の視点と具体的な手立て

育成する資質・能力を明確にし、指導の改善に生かす題材開発と授業改善の工夫

#### <視点1> 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動の設定

- ①育成したい児童の資質・能力を明確にした言語活動の吟味
  - ・児童の実態や今までに学習した内容を踏まえた言語活動
  - ・学習への目的や意欲を継続させられる言語活動
- ②学習の目的意識を明確にもたせる導入
  - ・適切な学習問題（単元を通して目指す課題）の設定と提示
  - ・学習への目的や意欲を継続させられるような資料の提示、発問
- ③単元全体の見通しをもたせる学習計画
  - ・学習計画や身に付けさせたい力、既に身に付けた力（授業のポイントや大切なこと）の掲示
  - ・教師による言語活動のモデル提示

#### <視点2> 伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫させる方法

- ①児童が自ら見付けたり選んだりできるような発問の工夫
  - ・自分の身の回りに目を向け、題材に気付く視点を与える  
 「いつもと違ったこと」「誰かに教えたいこと」「自分の気持ちを分かってもらいたい」  
 「おもしろかったこと」「驚いたこと」「困ったこと」「悲しかったこと」「初めて知ったこと」
  - ・立場や根拠、理由付けなど、視点を明確に示せるような活動の工夫
  - ・児童の考えを広げたり深めたりする問い（児童に揺さぶりをかける、自ら書きたくなる）
- ②学校図書館や情報機器を利用し、図書資料や新聞、インターネット等から情報を得て、調べたり考えたりさせる場の工夫
  - ・集めた材料を、共通点や相違点に着目しながら比べたり、分類したりする  
 「まとめる」「結び付ける」「関連付ける」
  - ・書く目的や意図、相手に応じて適切な材料を選んだり、更に情報を収集しようとしたりする

③伝えたいことが明確になるように、文章の構成を考えさせる工夫

- ・今までに学習した構成の「型」から、適したものを取り入れさせる  
(掲示物, ICTの活用)
- ・思考ツールの適切な活用 (参考資料『シンキングツール～考えることを教えたい～』)
- ・ICT (タブレット等) の効果的な活用

## V 研究を支える日常の取組

○語彙を豊かにし、表現力を高めるための取組の工夫

- ・暗唱 (全校で毎朝『言の葉』として実施), 音読, 視写などの反復練習により, 語彙を豊かにしたり書くことへの意欲をもったり, 技能を習得したりする
- ・読書指導を充実させ, 語彙を増やしたり感性や知識を磨いたりする
- ・教室掲示「話し方・聞き方の約束」の活用
- ・感情や行動を表す多様な表現や, 比喩表現などを示す掲示物
- ・自分の考えや言葉を広げたり整理したりするための思考ツールの活用

○各学年で学習した内容 (文章構成の型, 書き方) を『めざせ! 作文名人!』としてデータ化し, その単元の学習後にも活用できるようにする

**【型】** 低学年では, 「はじめ」「中」「終わり」を基本の型とし, 中学年以降は, 「中」を詳しく書いたり書き出しや結論を工夫したり, 「起承転結」や「序論・本論・結論」にしたりと, 児童が書きたい内容に応じた型を選ぶことができるようにする

**【方法】** タブレットを活用して児童が自由に閲覧, 選択できるようにすることで, 授業や家庭学習で活用する

また, 授業で必要なものを全体に示すこともできる

## VI 実践

### 授業実践① 1年生【思い出のアルバム】

#### 1 単元名 おもい出の アルバム

#### 2 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1)ウ
- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
- ・文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)オ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

#### 3 本単元における言語活動

自身が体験したことを通して、どのように成長したり、気持ちの変化が起きたりしたかを書く活動。

関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)ア

#### 4 単元について

##### (1) 単元観

本単元は、一年間の思い出の中から伝えたい題材を決め、順序やまとまりを意識した文章を書く学習である。これまでに児童は、『しらせたい ことを かこう』や『たのしかった ことを かこう』などの学習で、自分の経験や見たことなどの伝えたいことを、整った文章で書く学習に取り組んできた。この一年間の学校生活を振り返りながら題材を決め、自分の成長や変化したことについて、順序やまとまりを意識することにより、分かりやすい文章を書く力をつけることをねらいとして、本単元を設定した。

##### (2) 児童の実態

実態調査の結果から、国語科の授業は楽しいと感じている児童が多い。しかし、国語科の内容において、読むことや話すこと聞くことに比べると、書くことを楽しいと感じている児童の割合が少なかった。自分の気持ちや考えを書くことは楽しいと感じている児童が多い一方で、理由を付け加えたり、詳しく書いたりすることに苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。

また、文章の順序を正しく選ぶ問題については、正答率が5割弱だった。これは、文章が伝わるように、内容のまとまりや順序を意識しながら文章を書くことが身に付いていないからだと考えられる。

既習内容のかぎ（「 」）の使い方において、正しい文章を選ぶ問題では正答率が9割だったのに対し、かぎ（「 」）を用いて正しく文章を書く問題では正答率は5割と下がっている。会話文に触れる機会が少なかったり、会話文を書く経験が足りていなかったりするため、知識が正しく身に付いていないのだと考えられる。

##### (3) 指導観

上記のことから、本単元では、自分の成長や気持ちの変化などを分かりやすく書き表すために、内容のまとまりと順序を意識した文章構成を考えさせたり、かぎ（「 」）を正しく用いて文を書いたりできるような指導を行っていく必要があると考える。

本単元では、①児童の成長や変化を、内容の順序やまとまりを意識して文章を書く、②それを他者に読んでもらい、感想をもらう、③その感想を、かぎ（「 」）を用いて文章を書き加える、④完成した文章を、本校の学年文集『こぼと』に掲載する、という流れで単元を進めていく。

まず、1年生との交流が多かった6年生から、「成長したことや変化したことを教えてほしい。」という内容の手紙をもらったことを児童に伝え、返信の手紙の内容について考えさせる。そこで、一年間の出来事を想起させ、自身の成長や変化を思いつくままに挙げさせる。そして、思い付いたことについて、「始めはどうだったか」「何があったか」「どう変わったか」などの項目を示して、書く内容を決めていく。その際、パペット法を用いて、自分が何を書くのかをペアで伝え合う。パペット法とは、簡易的な人形を用いて話し合いをさせることで、一人一人の子どもがもっている思いや言葉を引き出すことをねらいとしているものである。この方法を用いることで、出来事をより具体的に思い出すことができ、自分の伝えたいことが6年生へしっかりと伝わるようになると思う。その後、伝えたい内容を整理し、まとまりを明確にした文章を書けるように、出来事や成長の順序に沿って文章を構成していく。ここでは、内容の順序やまとまりを意識し、読み手にとって分かりやすい文章を書くことが大切であるということを理解させていく。

文章（手紙）が完成したら、1年間関わりのあったペアの6年生に読んで伝える。手紙を読んだ6年生から一言感想をもらい、それを、かぎ（「」）を用いて文章の最後に付け加え、文集『こぼと』に掲載する作文を完成させる。

終末には、完成した文章を小グループ等で読み合い、感想を書く活動を行う。相手の文章の良いところ伝えたり、経験や思いを認め合ったりすることで、相手を肯定することの素晴らしさを味わわせ、今後の話し合い活動や交流活動へとつなげていきたい。

## 5 研究の視点との関連

### <視点1> 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動の工夫

- ・児童が目的意識や相手意識を明確にもち、学習への意欲を継続できるよう、単元の導入で6年生からももらった手紙を紹介したり、学校文集『こぼと』に載せることを伝えたりする。
- ・学習の見通しをもって、自分の伝えたいことを明確にした文章を書くことができるよう、単元のはじめに教師による文例を示す。

### <視点2> 伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫させる方法

- ・自分の伝えたい内容の順序やまとまりを意識したり、かぎ（「」）を用いた文章を書いたりすることができるよう、書く内容を整理する作文メモなどのワークシートを活用する。
- ・児童それぞれの思いや言葉を引き出すために、パペット法を用いて会話をさせる。
- ・「6年生や家の人に伝えたいことは何か。」という視点で、自分のがんばったことや成長したことを明確にして、相手に詳しく伝えることができるよう、自分の書きたいことを「はじめ」「できごと」「せいちょうしたこと・かわったこと」の三つの内容で考えさせる。

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ②「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (B(1)エ) ③「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けようとしている。 (B(1)オ)	①積極的に一年間の思い出の中から書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、学習の見通しをもって、伝えたいことが明確になるように順序やまとまりを意識した文章を書こうとしている。

## 7 指導と評価の計画（全8時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○6年生からの手紙を読み、返信の内容を決める。	・6年生からの手紙を読ませ、返信するという目的意識をもたせる。	・[主①]（発言、観察）積極的に自身の成長や変化したこと

	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年間の中で自分の成長や変化について書く内容を一つ選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年間の行事等について写真を見せ、自分が感じた成長や変化を想起させやすいようにする。</li> </ul>	<p>を話し合っているか、発言内容や様子の確認。</p>
2 5 本 時 3 / 8	<p>○書く内容をペアで伝え合いながら、文章を組み立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パペット法を用いて、ペアで書く内容を伝え合い、自身の思いや出来事を想起し、メモを書く。</li> <li>メモをもとに、伝えたい内容の順序やまとまりを意識しながら文章を組み立てる。</li> <li>完成した文章を6年生に読んでもらい、感想をもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを書く際に、「はじめ」「できごと」「せいちょうしたこと・かわったこと」に分類し、内容の順序やまとまりを意識させる。</li> <li>「いつ」「誰が」「どこで」「何をした」などをキーワードに、伝えたいことを詳しく書かせる。</li> <li>伝え合う際に、パペット法を用いることで、書く内容を深めさせる。</li> <li>文例を音読し、敬体の文末表現を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[思・判・表①] (ワークシート, 発言) 返信で書きたい内容を、友達に伝えたり、メモしたりしているかの確認。</li> <li>[主①] (発言, 観察) 自身の成長や変化したことから伝えたいことを決めているか、発言内容や様子の確認。</li> <li>[主①] (原稿用紙) 伝えたいことが明確になるように、順序やまとまりを意識した文章を書こうとしているかの確認。</li> <li>[知・技①] (ワークシート) 長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記を正しく用いて文章が書けているかの確認。</li> </ul>
6 7	<p>○6年生の感想を文章に書き加え、完成した文章を読み返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6年生からの感想を、かぎ(「」)を用いて文章に書き加える。</li> <li>伝えたい内容の順序やまとまりが分かりやすい文章になっているか、正しくかぎ(「」)を用いて文章を書けているか確認し、清書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた文章を文集「こぼと」に掲載することを伝え、新たな目的意識をもたせる。</li> <li>かぎ(「」)の書き方に留意しながら、文章を書かせる。</li> <li>書いた文章を音読させたり、他の友達の文章を読ませたりして、自分の文章の間違えや書き改めたい文を直させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[知・技①] (原稿用紙) 正しくかぎ(「」)や、助詞を用いて原稿用紙に文章が書けているかの確認。</li> <li>[思・判・表②] (ワークシート, 原稿用紙) 文章を読み返したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしているかの確認。</li> </ul>
8	<p>○文章を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで文章を読み合い、思い出についてわかりやすく書けているか感想を伝え合う。</li> <li>読んだ文章の良いところを全体で伝え合い、自分の文章の良さに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで回し読みをして、良い点や感想を付箋に書かせる。</li> <li>グループ内で見付けた良い点を全体で紹介させ、友達の文章の良いところを共有すると共に、自分の文章の良さに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[思・判・表③] (観察) 読んだ文章に対する感想を伝え合い、自分や相手の文章のよいところを見付けたり、気付いたりしているかの確認。</li> </ul>

## 8 本時の指導 (3/8)

### (1) 評価規準

- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫することができる。 [思考・判断・表現]

### (2) 研究の視点との関連

- 児童の思いや言葉を引き出すために、パペット法を用いて会話をさせる。 (視点2)

(3) 展開

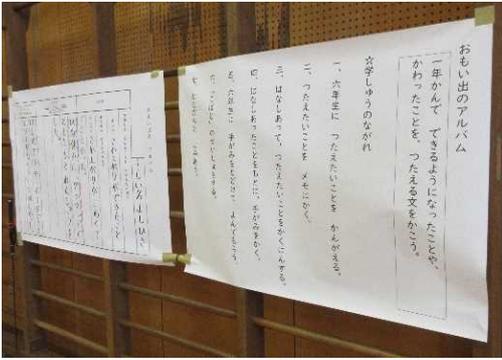
時配	学習内容と学習活動	○指導 ・支援 ☆手立て ◎評価	資料
5 【見 い だ す】	1 本時の学習と学習のめあてを知る。 ○前時までの学習を振り返り、自分の伝えたいことを「はじめ」「できごと」「せいちょうしたこと・かわったこと」に分けて書いたことを確認する。 ・辛くても頑張れるようになった。	○掲示物をもとに、前時までの学習を想起させ、本時の内容とめあてを理解させる。 ○数名の児童に伝えたい内容を発表させ、伝えたい内容が決まっていな児童が想起できるようにする。	学習計画表 写真 ワークシート
3 5 【広 げ 深 め る】	2 前時に考えた伝えたい内容について、メモをもとに伝え合う。 ○三人組で書く内容について、伝え合い、話した内容をタブレットで録音する。 ・どんなことがあったの？ ・どんなふうになったの？ ・最初は縄跳びが跳べなかったけど、友達と練習したらできるようになったよ。 ○一組目の話し合いが終わったら、ローテーションをして、別の三人組をつくり伝え合う。 ・なんで練習を頑張ろうと思ったの？ ・みんなが上手に鉄棒をしているのが楽しそうだったからだよ。	○教師が話してとなり、児童2名を聞き手として選出し、話し合いの進め方を理解させる。 ・足りない文章に気付かせたり、付け加えたいことを想起させたりするために、いくつかの質問の内容を指定する。 ○話し手は一組目で伝えた内容に付け加えたいことがあれば、二組目以降は、その内容も含めて伝えてよいことを確認する。 ○聞き手はわからないことや詳しく知りたいことがあれば、決められた質問に加えて聞いてよいことを確認する。 ・「なんで」「どうやって」などの詳しく知るための質問ができるように、ヒントカードを掲示する。 ☆児童の伝えたい内容を引き出すためにパペット法を用いて会話をさせる。 (視点2)	パペット タブレット
5 【ま と め あ げ る】	3 本時の学習を振り返る。 ○メモに書いた内容を発表し、次時で行う下書きへと繋げる。 ・早く6年生に書きたいな。 ・メモに書いてなかったけど、頑張れた理由も書こう。	○学習計画表を基に、次時は、録音した内容を原稿用紙に書いて下書きを確認することを確認する。	学習計画表

9 実際の授業の様子

(1) 視点1 との関わり



- ・本単元を、①6年生から「1年間でできるようになったことやがんばったことを教えてほしい」旨の手紙をもらったことを伝える、②返事となる作文を書く、③6年生に作文を読み、返事を一言もらう、④作文の最後に、6年生の言葉をかぎ（「 」）を用いて書き加える、という流れで行った。作文を書くことの目的意識や相手意識を明確した言語活動になると共に、全員がかぎ（「 」）を用いた文章を書くことができた。

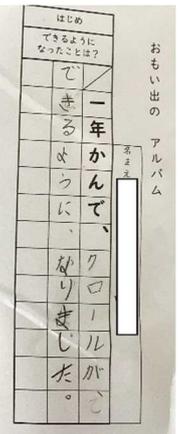
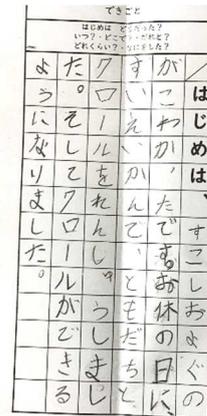
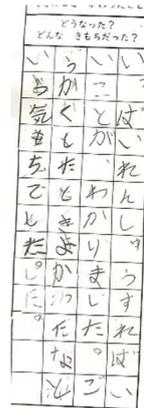
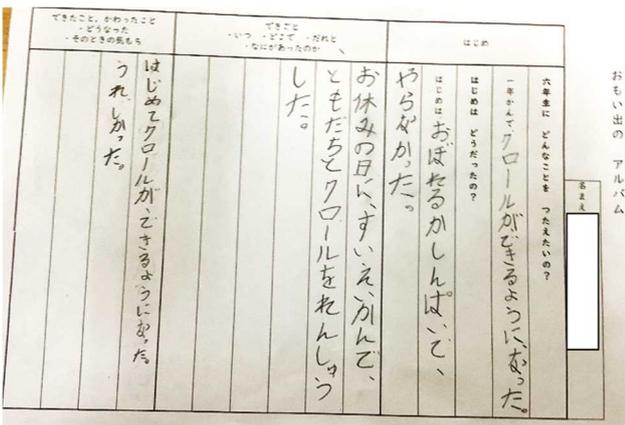


- 単元のはじめに、単元全体の学習計画を掲示したり、教師によるモデル文を提示したりしたことで、児童は見通しをもって進んで学習に取り組むことができた。

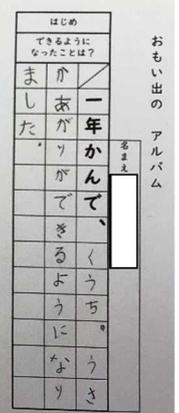
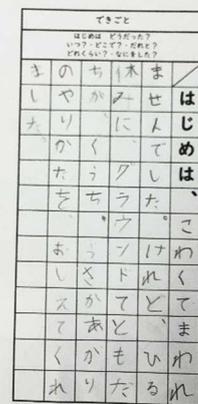
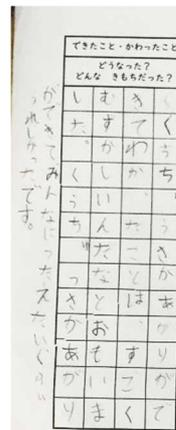
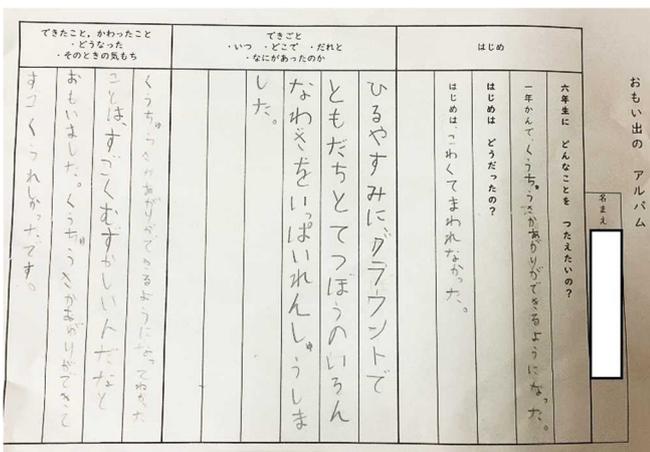
(2) 視点2との関わり



- 「パペット法」を用いたことで、自分の書きたい出来事を具体的に思い出すことができ、作文に生かすことができた。また、質問事項を教師がある程度決めていたため、交流がスムーズに進むと共に、作文の構成につなげることができた。
- 複数の友達に繰り返し話したことで、自分の伝えたい内容や言葉を整理、吟味することができた。また、会話をタブレットで録音していたため、聞き返ししながら文章化することができ、書いたものを何度も推敲する必要がなくなり、書くことへの負担を軽減することができた。



- 始めの作文メモでは詳しくかけなかった児童も、パペット法を用いた交流により、出来事の内容や自分の思いを書き加えることができた。



- 段落の構成が分かるような作文メモを用いたことで、友達と話したことから自分の書きたいことを整理し、文章化することができた。

## 授業実践② 4年生【「不思議ずかん」を作ろう】

### 1 単元名 「不思議ずかん」を作ろう

#### 2 単元の目標

- ・比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- ・相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力，判断力，表現力等] B(1)ア
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。 [思考力，判断力，表現力等] B(1)ウ
- ・間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして，文や文章を整えることができる。 [思考力，判断力，表現力等] B(1)エ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力，人間性等]

#### 3 本単元における言語活動

身の回りの不思議なことを調べまとめて，図鑑を作る活動。

関連：[思考力，判断力，表現力等] B(2)ア

#### 4 単元について

##### (1) 単元観

本単元は，図や写真を用いて，調べたことを相手にわかりやすく伝える学習である。児童はこれまでに，第3学年において「クラスの『生き物ブック』を作ろう」の学習で，昆虫などの身近な生き物について，本などで調べ，生き物ブックを作る活動を行ってきた。

また第4学年の「学級新聞を作ろう」の学習では，相手を意識しながら，小見出しや文章の表現などを工夫して書き表す経験をしてきている。その際友達と話し合いながら，より効果的な割り付けや文章表現に気付いたり，お互いの良さを認め合ったりしてきた。

そこで，子どもたちが興味をもちそうな「学校の不思議」について様々な資料を使って調べ，読み手を意識し，工夫して表現することをねらいとして，本単元を設定した。

##### (2) 児童の実態

実態調査の結果から，本学級の子どもたちは，文章を書くことに苦手意識をもっている子は，4割程度である。また休日に書いている日記を見ると，自分の書きたいことを文章に素直に表すことができている児童は半数程度である。一方で，書きたいことはあるが，どのように書いたらよいかわからないと考える児童が3割程度いた。しかし，書くことに苦手意識をもっている児童でも，新聞やリーフレット，図鑑作りなどは好きと答えるなど，意欲の高さを見せている。調べたことをもとにして書き表す学習は，他教科でも学んできており，児童の中では身近な表現の仕方であると考えられる。

##### (3) 指導観

上記のことから，本単元では，伝えたい内容と表現の関係に注意しながら，効果的な写真や図を使い，読み手が読みたくなるような工夫をして書き表す力を養っていききたい。

本単元では，まずモデル文をもとに，不思議図鑑がどのような構成になっていて，どのような表現の工夫があるのか考えさせたい。また写真や図があることで，読み手にとって分かりやすく，伝えたい内容がより明確になっている点にも気付かせたい。そして，読み手にとって分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考えて，図鑑を作成することを強く意識させたい。

次に，身の回りの不思議集めをして，書きたいことを選ばせ，取材をする。身の回りの不思議集めをする際には，ウェビングマップを使い，児童の思考のあとが残るようにする。なぜ，そのことに興味をもったのか，なぜそのことを伝えたいと思ったのかという動機が，図鑑作りの意欲化へとつながると考えるからである。その後，題材を選択し，各自取材をしていく。どのような取材の方法があるか，あらかじめクラスで共有し，目的に合った調べ方を学ばせていきたい。

次に、始め、中、終わりの構成を考えながら、組み立て表を作る。友達と「題名の工夫」「書き出しの工夫」「伝えたい秘密」「図や写真の使い方」の4つの点について、分かりやすく表現できているかについて、話し合いをさせたい。話し合っ得た助言などを自分なりに整理しながら、図鑑の原稿を書くようにさせていく。また、自分が集めた情報の出どころを明確にし、記述することに注意させたい。

終末には、図鑑にまとめる前に、友達同士で読み合い、伝えたいことが分かりやすく書き表されているか感想を伝え合い、友達の工夫した表現に多く触れさせたい。そして、最後には表紙や目次を作って、一冊の図鑑にまとめ、他学年の友達へと広げていきたい。

## 5 研究の視点との関連

### <視点1> 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動の工夫

- ・相手意識や目的意識を明確にもたせるために、出来上がった「学校の不思議ずかん」を他学年児童に伝えるという単元のゴールを示す。
- ・学習活動の始めには、学習の見通しをもたせるため、本単元で作る「ずかん」がどのようなものなのかを知らせ、それを作るためには、どのような材料を集めなければならないかを考えさせる。
- ・モデル文を提示する際には、題名や書き出しの工夫、写真や図表の使い方の工夫などに気付かせ、自分が書き表すときのポイントにさせる。

### <視点2> 伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫させる方法

- ・図鑑に載せるものを決める際には様々なメディアの特徴を知らせ、目的に合った方法で調べられるようにさせる。(本や新聞、テレビ番組、インターネットなど)
- ・身の回りの不思議を集めたり、題材を決めたりする際には、自分の思考の流れが分かるよう思考ツール(ウェブマップ)を使って選択させる。また取材の際には、視覚的に情報が整理できるように、タブレットを使って、取材メモや写真を収集させる。
- ・組み立て表を友達と見合う際には、話し合う観点を明確にして、話し合わせるために、話し合いの場面の動画を見せて、参考にさせる。

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。 (2イ)	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ③「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)	①積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。 ②粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を書こうとしている。

## 7 指導と評価の計画(全7時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○学習の進め方を読み、学習の見通しをもつ。 ・教科書の作品例を読み、工夫していることを確認する。 ・学習の進め方を読み、図鑑をどんな手順で作成するのかを	・モデル文を示し、身の回りから不思議なことを探して紹介し、みんなで一冊の図鑑と知って編集することを理解させる。 ・モデル文の工夫(題名・書き出し・写真や図の使い方など)に気付かせる。	・[主①](発言、観察)積極的に、活動計画を立て「不思議ずかん」を作ろうとしている様子の確認。

	確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図鑑をどのような手順で作成するのか、誰に伝えるのかを明確にさせ、活動計画を立てさせる。</li> </ul>	
2	○図鑑に載せるものを決め、調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気付いたことや疑問に思ったことをメモしたり、もっと詳しく知りたくなったことを調べたりさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[思・判・表①] (思考ツール) 身の回りの不思議から、自分が伝えたいことを決めているかの内容の確認。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。</li> <li>・題材について取材する。</li> <li>・取材したことはロイロノートにまとめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議を見つけるには、ふだんは気付いていない場所や見落としがちな部分などに注目し、探すようにさせる。</li> <li>・調べたことを取材メモや写真などにロイロノートに記録するようにさせる。</li> </ul>	
4	○組み立て表を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた取材メモや写真を、組み立て表の「始め」「中」「終わり」に整理し、構成を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[思・判・表②] (組み立て表) 自分の見つけた「不思議」を読み手にはっきり伝えるために書き表し方を工夫しているか内容の確認。</li> </ul>
5	○自分が作った組み立て表をもとに話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できた組み立て表を友達と読み合いながら、気付いたことを話し合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[思・判・表②] (組み立て表, 発言) 伝えたいことの中心をはっきりさせるために、4つの観点で話し合っているかの確認。</li> </ul>
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できた組み立て表をグループの友達と交換して読み、意見を伝え合う。</li> </ul>		
6	○図鑑の原稿を書き、読み返す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿を書くときに気を付けさせる事柄を確認させる。 (見開き2ページにまとめることや読み手を意識した伝えたい内容の中心となる題名など)</li> <li>・読み返す際には、伝えたい内容が明確になっているか、内容と写真が合っているかなど視点をはっきりさせて、読み返すようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[知・技①] (原稿用紙) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っているか記述内容の確認。</li> <li>・[思・判・表③] (原稿用紙) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文章を整えている記述内容の確認。</li> <li>・[主②] (観察) 粘り強く、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「学校的不思議ずかん」を作ろうとしているか様子の確認。</li> </ul>

7	<p>○図鑑を完成させ、グループで発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書いた原稿を写真に撮り、撮った写真を付け加えて、印刷する</li> <li>表紙や目次をつけて、図鑑を作る。</li> <li>学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを使って完成させる。</li> <li>読む人が興味をもって読めるような内容か、学校の不思議が効果的に伝わる表現かなどの観点で交流させる。</li> <li>表紙や目次などに書く内容を全体で確認し、決定したことを代表者に書かせる。</li> <li>学習のねらいに照らし合わせて、学習を振り返らせる。</li> </ul>	
---	--	---	--

8 本時の指導（5／7）

(1) 評価規準

- グループでの話し合いを通して、内容の中心を効果的に伝えるための組み立て表を作っている。

[思考・判断・表現]

(2) 研究の視点との関連

- モデルとなる組み立て表を提示し、「題名の工夫」「書き出しの工夫」「伝えたい秘密」「図や写真の使い方」の4つの観点で話し合いをする動画を見せて、参考にさせる。(視点2)

(3) 展開

時配	学習内容と学習活動	○指導 ・支援 ☆手立て ◎評価	資料
5 【見いだす】	<p>1 本時の学習と学習のめあてを知る。</p> <p>○モデル文を見て、表現の工夫を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>始めにアップの写真があって、問いかけの文章から始まっていた。</li> <li>何を不思議とするのかを決めて組み立てを考えている。</li> </ul>	<p>○掲示物をもとに、モデル文の表現の工夫を理解させる。</p>	<p>モデル文 組み立て表の拡大</p>
<p>伝えたいことを中心をはっきりさせた組み立て表を作ろう。</p>			
5 【自分で取り組む】	<p>2 前時で集めた取材メモや写真を、組み立て表の「始め」「中」「終わり」に整理して構成を考えたり読み返す。</p> <p>○内容の中心を明確にして組み立て表を作ったか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題名はみんなが読みたくなるように工夫したいな。</li> <li>迷っているところを相談したいな。</li> </ul>	<p>○組み立て表を書くときに注意したことを想起させる。</p> <p>○詳しく調べた内容をどの部分で書くのかを考え、困ったところは友達に相談するようにさせる。</p> <p>○赤と青の付箋を用意し、赤には、良いところ、青には改善点を書いて貼るようにさせる。</p>	<p>組み立て表 赤・青の付箋</p>
30 【広げ深める】	<p>3 できた組み立て表を友達と読み合いながら、気付いたことを話し合う。</p> <p>○伝えたいことがはっきりと読み手に伝わるような組み立て表になっているか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この写真の並べ方よりも、この方が読む人が興味をもつのではないかな。</li> <li>この言葉の意味が難しくて伝わりにくいよ。</li> </ul>	<p>○友達の組み立て表を見る観点や助言の例を動画で流す。</p> <p>☆モデルとなる組み立て表を提示し、「題名の工夫」「書き出しの工夫」「伝えたい秘密」「図や写真の使い方」の4つの観点で話し合いをする動画を見せて参考にさせる。(視点2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組み立て表を友達と見合いながら、書き手の目的や意図、伝えたい内容と表現の関係に注意して、わかりやすく伝えられているか意見を述べ合うようにさせる。</li> </ul>	<p>タブレット 組み立て表</p>

<p>5</p> <p>【まとめあげる】</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>○本時で考えた組み立て表を、次時に書く図鑑の原稿につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの助言で、分かりやすい文章になったと思います。</li> <li>・読む人が驚くような文章になったと思います。</li> </ul>	<p>○話し合ったことをもとに、組み立て表に書き加えたり、書き直したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に助言してもらったことをもとに直そう。</li> <li>・写真をより分かりやすいものに変えよう。</li> </ul> <p>○交流して出た結果は、自分で組み立て表に記させる。</p> <p>◎ [思・判・表] (組み立て表, 観察)      ≪支援を要する児童への手立て≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の組み立て表をどのように見たらよいか、観点や助言の例の掲示物を示し、参考にさせる。</li> </ul> <p>○友達の組み立て表を共有し、そのよいところに気付かせる。</p>	<p>組み立て表 タブレット</p>
--------------------------	---	---	------------------------

## 9 実際の授業の様子

### (1) 視点1 との関わり



- ・単元の始めに、「もうすぐ卒業する6年生に向けて、成田小学校の良さや知られざる不思議を伝えるための図鑑を作ろう。」と子どもたちに伝え、相手意識を明確に持たせるようにした。
- ・モデル文を示す際には、完全なものを提示するのではなく、あえて不完全なものを提示し、話し合う際の気づきの促しをした。



#### 【児童が考えたテーマの一例】

##### 一般的な学校に関連するもの

- ・給食の歴史
- ・ピアノはどうやって音がでるの？
- ・CDの秘密

##### 本校独自のもの

- ・成小でお宝発見！
- ・成小の校歌を作った人はすごい人
- ・花火通りのひみつ
- ・職員玄関の太鼓のひみつ
- ・なぜ三クラスになったの？

(2) 視点2との関わり

①導入時での思考ツールの活用

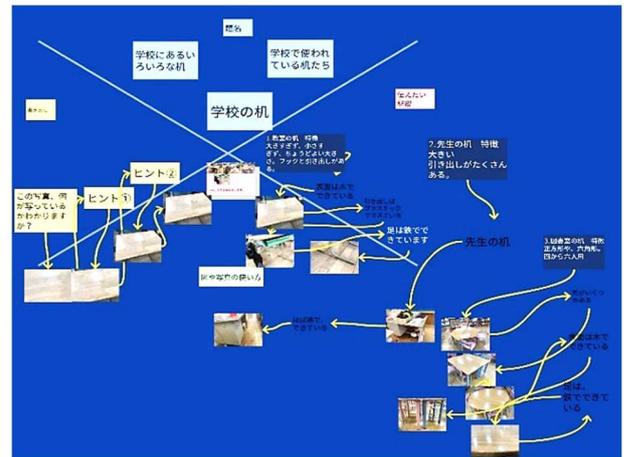
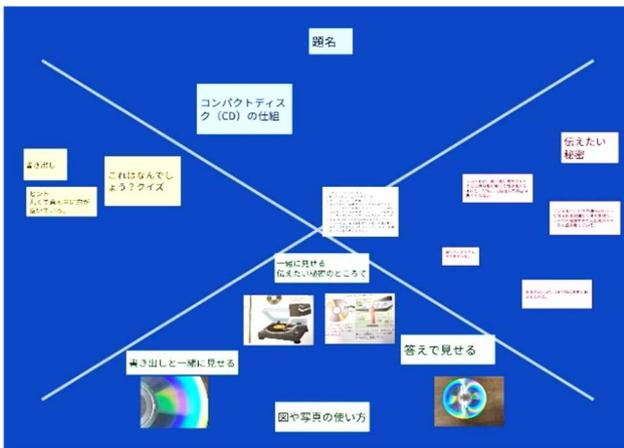


・思考ツールのウェビングマップを使い、「学校の不思議」を中心にし、連想することをなるべくたくさん描きだすようにして、自由な発想を促した。

②取材メモを作る際のタブレットの活用

・テーマを決め、取材をする際には、タブレットを使って写真を撮ったり、インターネットから情報を得たりして、タブレット上で取材した内容を積み重ねていくようにした。

③組み立て表を作成する際の思考ツールの活用



・組み立て表を作る際には、「題名」「書き出し」「伝えたい秘密」「図や写真の使い方」の4つの観点で各自Xチャートをもとに整理して、作成させた。



- ・話し合いの前に、モデルとなる話し合い動画を見せ、より中心がはっきりした組み立て表にするために、どんな話し合いが必要かを考えさせた。
- ・その後、友達同士で話し合う際にも、青い付箋には改善点、赤い付箋には良い点を書き、それをもとに話し合うようにさせた。

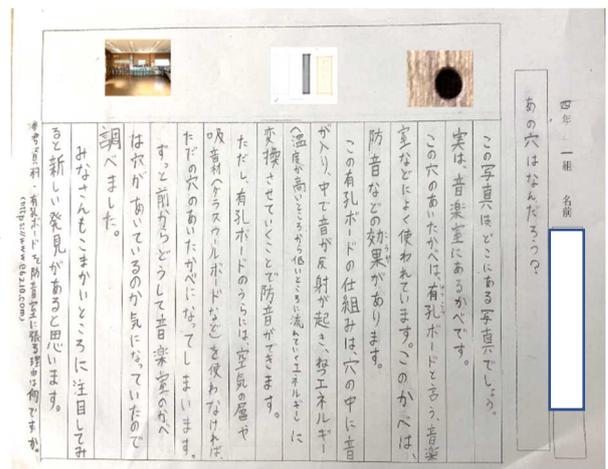
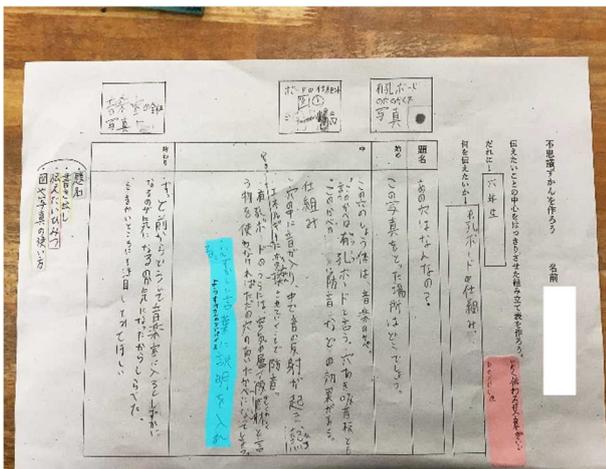


- ・話し合いの際には、タブレットを手元に置き、自分のとった写真が効果的かなどについても話し合うようにさせた。また、写真や図などの差し替えなども検討させた。

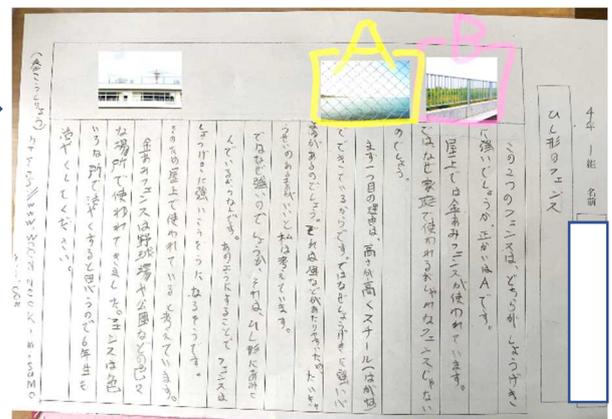
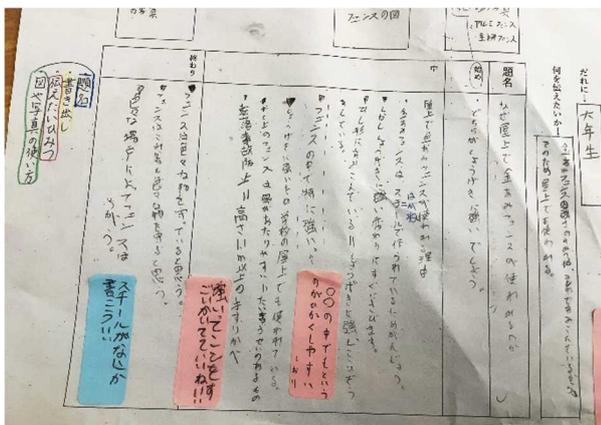


- ・話し合ったことをもとに、構成を検討し直している。相手や目的を意識した内容や構成になっているか、自分が伝えたいことがはっきりと表せているかを確かめさせた。

話し合いを元に、組み立て表を見直し、完成した図鑑



- ・難しい言葉に説明を入れた方がはっきり伝わることを指摘され、改善した。



- ・友達と交流した結果、伝えたいことをよりはっきりさせるような表現で、文章を書くことができた。

## 主な日常の取組① 毎朝の詩の暗唱『言の葉』

令和4年度 作品の一部

低学年	中学年	高学年
たけのこ ぐん 武鹿悦子	吾輩は猫である(冒頭部分)	五十音 北原白秋
あめ まど・みちお	夏目漱石	椰子の実 島崎藤村
なまけ忍者 荘司武	お祭り 北原白秋	野の花 高丸もと子
きつねのおきやくさま(一部)	水のころ 高田敏子	山みちのうた 宮沢章二
あまんきみこ	どろぼう小唄 柳亭燕路	遠き山に日は落ちて 堀内敬三
七草	よいしょがいっぱい 工藤直子	その人 相田みつお
なわとび 芦村公博	五十音 北原白秋	新しき年の～ 大伴家持
うめの花 宮沢章二	雨ニモマケズ 宮沢賢治	

令和5年度 全校のテーマと作品

月	テーマ	月	低学年	中学年	高学年
4月	春・スタート	4	くまさん まど・みちお	へたたけど 新川和江	支度 黒田 三郎
5月	梅雨	5	雨のうた 鶴見正夫	あめ 山田今次	春の雨 高田敏子
6月	俳句	6	菜の花や～ 与謝蕪村	ひっばれる糸～ 高野素十	暑き日を～ 松尾芭蕉
7月	夏		古池や～ 松尾芭蕉	夏河や～ 与謝蕪村	分け入っても～ 種田山頭火
9月	運動会・スポーツの秋			さじなめて～ 山口誓子	
10月	達成感が得られるもの	7	大空のうた 渋谷重夫	わたぐもよ うみひろみ(工藤直子)	夏の思い出 中田喜直
11月	読書の秋・〇〇の秋	9	勇気100% 松井五郎	扉 GReeeeN	スポーツ<走る> 鶴見正夫
12月	友達(人)	10	論語 子曰く～	ただいだけで 相田みつお	はやくちことば 有馬敏
1月	短歌				
2月	冬・雪				
3月	卒業・お別れ				

- ・全校統一で月ごとのテーマを設定し、低・中・高学年ごとに作品を決めた。朝の会の時間に、毎日暗唱している。

## 主な日常の取組② 『めざせ！作文名人！』（文章の型）の作成と活用

- 各学年で学習した内容を上学年でも進んで活用できるように、タブレット（ロイロノートの資料箱）に『めざせ！作文名人！』として、全学年の「文章の型」を保存し、授業や家庭学習で活用している。

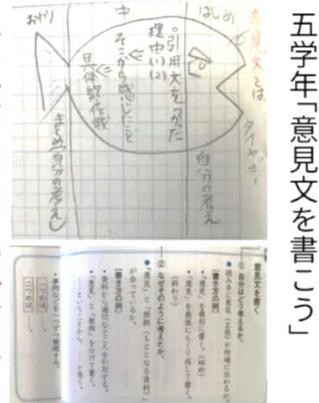
### 実践①【5学年の学習を、6学年の授業で活用した例】

- 5年生「意見文を書こう」の学習を、6年生「随筆を書こう」の授業で活用した。普段、文章を書くことが苦手な児童も、自分の経験や思い、考えを文章にまとめることができた。

#### ○5年生「意見文を書こう」の学習

**五学年「意見文を書こう」**

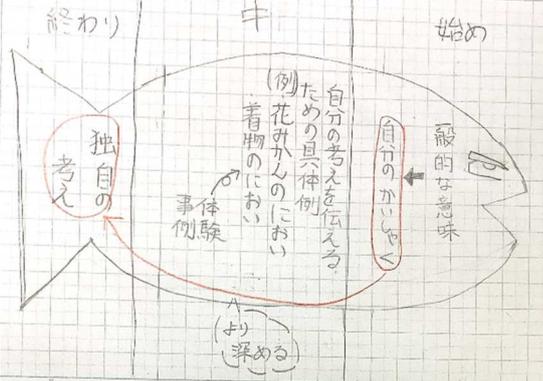
- ・ 意見文の構成を考えると、自分の考えを伝えるとき
- ・ へこんだときに、つかおう



- ・ 昨年の学習を生かして、随筆に書きたいことを整理し、文章の構成を考える。

#### ○6年生「随筆を書こう」の学習

終わり ← 始め



- ・ 構成を元に、作文を書く。

「へこんだ」について

「へこんだ」とは、へこみを感じることで、良い悪いなどの感覚を得るもの（一般）

自分が思うへこみは、あるものの中に、おぼろげなことで、そのときの気持や思いを伝えてくれる。

・ ケーキのあまみにおりをかぐと、初めてのお誕生日で、お母さんか、作ってくれた手作りのショートケーキを思い出す。

・ せんこうのにおりをかぐと、石川県に行くと、おぼろげな思い出す。

・ へこみは、その時のにおりをかぐこと、その時思ったこと、話したことを思い出す。

・ へこみは、その時のにおりをかぐこと、話したことを思い出す。

・ へこみは、その時のにおりをかぐこと、話したことを思い出す。



## Ⅶ 研究の成果（○）と課題（●）

### 1 視点1

- 相手意識や目的意識を明確にした言語活動を設定したことで、単元全体の見通しをもって授業に臨むと共に、目的や意欲を継続させることができた。また、児童自身が「書けた。」という実感をもつことへもつながった。
- 単元の導入で、学習のゴールを示したり、意欲を継続させられるような教師のモデル文を提示したりしたことで、単元全体の見通しをもち、目的意識を明確にして学習に取り組ませることができた。今後も、児童の身に付けさせたい力を十分に吟味し、言語活動を設定したり教師のモデル文を工夫したりしていきたい。
- 単元の中で、意図的に友達の書いた作文メモや文章を読み合う活動を取り入れたことで、他の人が書いた文章を読むことの楽しさを感じたり、感想や改善点などを伝えたりできるようになった。
- 生活科や総合的な学習の時間など、国語科以外の教科・領域の学習や他学年との関わりの中に、国語科の書き表す内容を設定したことで、より身近な事柄に取り組むことができ、目的意識をもつことができた。
- 自分の考えや、書きたいことを明確化できなかった児童もいることから、学習の目的意識の持たせ方についてはさらなる工夫が必要である。

### 2 視点2

- 文章を書く前に、書きたいことやその出来事を友達と話すことで、事実や気持ちを詳しく思い出させることができた。また、話し合う視点を明確にして友達と交流する活動を何度も設けたことで、ねらいに沿って積極的に話し合ったり推敲し合ったりすることができた。
- 書きたいことを整理する際、学年の実態や学習内容に応じて、様々な方法や道具（色違いの短冊、付箋、構成メモ、適切な思考ツール）を用いたことで、進んで書くことの順序を考えたり、友達と活発な意見交換をしたりすることができた。
- タブレットを用いて、ロイロノートの共有ノートの機能を利用し、友達の意見を見たり聞いたりするなど他者との関わりがしやすくなり、積極的に自分の考えを伝えたり、考えを広げたりすることができるようになった。
- 思考を深めるための方法を教師が適切に見極め、思考ツールの活用やタブレットの利用など、身に付けさせたい力や学習内容に適した深め方を児童に経験させる必要がある。
- 前学年までに身に付けた力を児童が活用できるよう、教師が各学年での指導内容を適切に理解すると共に、全校で作成した文章の型『めざせ！作文名人！』を学習の中で適切に活用していく必要がある。

### 3 研究を支える日常の取組

- 詩の暗唱を継続して行ったことで、日本語の独特なリズムや響きを味わい、豊かな言語感覚を養ったり日本の文化に触れたりさせることができた。また、文学作品の冒頭部分なども取り入れたことで、児童が様々な作品に興味をもち、読書活動の幅も広がった。
- 各学年で学習した内容（文章構成の型、書き方）を、データ化したことで、学習したことを家庭学習や次の学年でも活用することができた。また、『めざせ！作文名人！』として、文例や構成表、書き方のポイントなどを端的に載せているため、「何を」「どのように書くか」などの既習内容を想起しやすく、児童自ら書きたいことを整理して文章にまとめることができた。
- 毎週末の家庭学習で、日記やテーマを決めた作文を書かせたことで、書くことに対する抵抗感がなくなり、文章を書こうとする意欲が高まった。
- 今後も、様々な教科・領域、学校生活全体を通じて、「書くこと」の機会を増やしたり意欲的に取り組んだりできるような活動を工夫していきたい。

#### 4 教師の意識の変化

- 児童に合った言語活動の設定と、目的意識、相手意識がとても大切であると再確認した。これが明確だと、子どももめあてに向かって進んで取り組むことができる。また、読んでもらった相手から返事をもらうことで、書くことへの喜びを感じられた。
- 国語科の「話す・聞く」「書く」「読む」がそれぞれつながっていることを改めて感じた。目標が何かを教師が明確にしていれば、手立てとして別の領域を使うことが有効であり、評価で迷うことがない。
- 教師が事前に文例を書くことによって、児童がつまずきやすい箇所を知り、指導に生かせるようになった。
- 書くことが苦手な児童も、書けるようになるための方法をより丁寧に考えるようになった。特に、タブレットを活用することで、「書くこと」へのハードルが下がった。今後も、有効な利活用を考えて工夫していきたい。特に、思考ツールやタブレット端末を活用したことで、自分の考えを友達と共有する場が増えたことで、自分の考えを書けなかった児童も意欲的に意見交流できるようになった。
- 子ども同士で、表現を吟味する話し合い活動を行うように意識するようになり、表現が豊かになった。
- 学年や単元に合った選書がとても大切である。学校図書館司書に任せきりではなく、担任も単元のねらいに合ったものを考え、選書することで、児童の読む力や書く力が高まる。